

■ 郡上市立はちまん幼稚園

1 子どもの実態

本園は年一回（6月前後）歯科検診を行い、その結果を保護者に通知し、異常がある場合は医療機関の受診を勧めている。今年度は全園児で38名（年長児12名、年中児8名、年少児18名）であるが、そのうち蝕歯保有者0名、咬合異常3名、歯肉や歯垢の状態に異常がある0名だった。保護者の意識も高く速やかに受診され、特に個別に声掛けをしなくても、9月には全員が受診を完了された。

園では毎年6月には『歯みがき教室』を行ったり、歯や歯みがきの大切さを日々の保育の中でも意識的に伝えたりしている。また、朝の会で口を大きく動かす『あいっぺ体操』をしたり、おやつを使って舌の動きを促す『お口の体操』をしたりするなど、子どもの口腔機能を高めるための活動を行っている。また『噛む』ことの大切さを伝え、『よく噛む』意識がもてるよう促している。



2 ねらい

園では適切な歯みがきが十分できないことも考慮し、保護者への啓発をする。『歯肉炎』について保護者への情報発信をすることで、むし歯がなければ安心ではなく『子どもの歯肉炎が増加している』現状を知り、今からできることを考えていただく。

3 実践

園医にも相談すると、歯肉炎になる理由や、歯肉炎の見分け方等の資料を提供していただいたのでそれも利用し、保護者向けのお便りを作成した。

また、知らせることだけでなく歯肉炎予防のためには、丁寧な歯みがきが必要で、幼児にとってはそれが『仕上げみがき』であることを伝え、毎月行っている約束表の『やくそく』として、10月に一週間取り組んでもらうことにした。

取り組んで感じたことやお便りの内容の感想等も書き、提出していただいた。

保護者に配布した保健だより
上:表面 下:裏面

～ほげんだより～ ★子どもの歯肉炎が急増中！？★

園では年に1回歯科検診を行っています。今年度も虫歯がない子どもが多く、とても嬉しく思いました。でも、虫歯がないから安心…と思っていませんか？
幼い頃からフッ素塗布などの効果もあり、虫歯は減っているのが現状ですが、実は小中学生の4割近くが歯肉炎だとおぼれるほど、現在歯肉炎になる子どもが増えていっています。

歯肉炎ってどのようなものなんでしょう？歯肉炎とは歯茎が炎症を起こして、赤くはれたり出血したりする状態で、放置しておくとうつ病の原因にもなります。

- ・固い物をかんだり歯磨きをしたら血が出る
- ・歯茎をむずかゆがっている
- ・歯肉のフチが赤く赤みを持って膨らんでいたり、腫れとよぶよぶしている

こんな症状がないか、お家の力をしっかりお口の力をチェックしてあげてください。では、歯肉炎にならないために、今からできることは何でしょうか？

園医にも指導していただきました。
《歯肉炎の予防・改善には…》

- ①正しい歯磨き ②正しいものを食べる ③口呼吸を止める ④免疫力をアップさせる

この4つが大切です。

また、もし歯肉炎になっても幼児期は注目の歯磨きによって短期間で改善がみられるそうです。

この機会に、一度ゆっくりお子さんの口の中を確認してみてくださいね！

昨年度は子供の歯科衛生の中で『歯肉炎予防』を一つの課題として取り上げています。今年度は、はちまん幼稚園での取り組みを『学校保健』の冊子に掲載の機会があり、保護者の方にも『歯肉炎』について知っていただく機会をつくらせていただきました。

また、毎月行っている『約束表』を、今日は幼児の丁寧な歯磨き＝保護者の仕上げ磨きが必要という捉えで『仕上げ磨きしよう』という約束に取り組みたいと思います。（できれば寝る前の歯磨きでの仕上げ磨きをお願いします。）

歯肉炎について知ったり、お子さんの歯、歯肉を見て気付いたことなどの感想があれば、約束表の裏面に記入して下さいとありがたいです。ご協力よろしくお願いたします。

歯肉をよ～く見よう！

～歯肉炎自分で見つけ方は4～

- ①色を見よう ②さわってみよう
- ③形を見よう ④血は出そうかな

4つのうちから1つでもあてはまる歯肉は歯肉炎です。

なぜ歯肉炎になるの？
一歯肉炎になるわけ

1. 歯肉炎の存在
私たちの歯と歯肉の間には、健康な人でも2mmくらいの溝があります。
2. 細菌（バイキン）の侵入
この溝に歯垢の中の酸っぱい細菌（バイキン）が入り込みます。
3. 細菌（バイキン）と白血球との戦い
歯肉の中の歯茎がみくんで、私たちの体や歯肉を守る“白血球”があらわれてきます。この白血球は、細菌（バイキン）を取り除こうと頑張っています。このとき、歯肉が腫れ出すようになります。これが歯肉炎です。歯肉炎は私たちの体の白血球が、外から入ってきた細菌（バイキン）から体を守ろうとする戦いののです。
4. 白血球の勝利
しかし、普段からきちんと歯磨きをして風邪を引かない生活をしている人や、歯垢（歯垢のかたまり）をきちんと取り除いている人は、細菌（バイキン）が侵入する隙もありません。歯肉炎が勝ち、歯肉は自然に腫れが治ります。
5. 細菌（バイキン）の勝利（歯肉炎の進行）
ところが、体が弱っているときに細菌（バイキン）が攻め込んでくると、細菌（バイキン）の出す毒素などに白血球が負け、歯肉がさらに腫れ上がり、歯と歯肉の境目の溝が深くなっていきます。
6. 細菌（バイキン）の勝利（歯肉炎の悪化）
歯肉炎の攻撃が長く続いていると、歯を支えているアゴの骨は、細菌（バイキン）の出す毒素からのダメージで、だんだん溶けていきます。
7. 歯の脱落
痛みが感じにくいため、そのまま放っておくと歯を支える骨がなくなり、歯がぐらぐらになり、ついには歯が抜け落ちてしまいます。子どもの歯にかかった歯肉炎が、大人になって歯を失う原因になるわけですが、歯肉の病気（歯肉炎）は、歯を失う原因の半分を占めています。

歯肉炎を防ぐ方法について考えよう！
歯肉炎を防ぐには？……
☆バランスのよい食生活で強い体を作る。
☆歯磨きなど歯垢を落とす習慣を身につける。
☆歯垢が溜まると歯肉の腫れを招く。
☆歯と歯肉の境目の溝を注意深く取り除く。

今日から歯を付けてみることは何かあるでしょうか？

【家庭で一週間取り組んだ約束表】

<10がつのやくそく> 幼児にとって、丁寧な歯磨きは仕上げ磨きが必要です！

しあげ はみがきをしてもらおう！

24にち(げつ)	25にち(か)	26にち(すい)	27にち(もく)	28にち(きん)	29にち(ど)	30にち(にち)

★できたひは おうちのひとといっしょに いろをぬったり しーるをはったりしよう！

お子さんの様子や気付いたことを
お書きください。
歯肉炎に関する事でもいいです。

～前回のお子さんや気付いたことの紹介～

- ・苦手な物も少しでも食べられるようになってほしいです。
- ・起きてすぐは食べられない様で、30～40分後すると少しですが毎日食べることができました。
- ・元気な日は朝からしっかり食べていました。ゆっくりご飯を楽しめるように早起きも継続したいです。

朝ご飯は決まったメニューを食べている、というご家庭も多くありました。
「毎日朝ご飯をしっかり食べて、元気いっぱい遊ぶ！」は健康な体づくりに繋がりますね。

☆11月1日(火)までに提出してください

〈保護者の感想抜粋〉

- ・歯肉炎は特に見付からず良かったです。
- ・子どもの歯肉炎が多いことに驚きました。今まで仕上げみがきをしていても歯肉炎のことは気にしていませんでしたが、今回の取組で歯と歯の境目にも注意することができました。子ども達にも声を掛け、今のうちから歯肉炎予防をしたいと思います。
- ・歯と歯の間がみがきにくかったので、これからの気を付けてみがきたいし、歯科にも定期的に行こうと思った。
- ・3～4ヶ月に1回のペースで歯医者さんにも通っています。
- ・歯茎もとても健康で、腫れているところもありませんでした。
- ・歯肉炎予防で歯茎をやさしくマッサージすることを始めました。
- ・予防が大事！と自分の経験からも感じています。親子で知識、理由を知り取り組むことは大事だと思いました。

4 成果と課題

感想からも分かるように、ほとんどの保護者が子どもの歯肉炎が多い現状を知らず、今回のお便りや約束表を通して、子どもの口腔内を今までとは違う視点で注意深く見たり、自分なりにできることをやってみようとしたりするきっかけとなった。

また、今後も口腔衛生上の正しい情報(みがき方や病気など)を保護者に発信し、家庭でも歯みがき等の口腔衛生を大切なこととして意識していただけるよう呼び掛けていきたい。

園では、園児と日頃より行っている『あいうべ体操』『お口の体操』『よく噛む』ことの推進など今行っていることを継続し、一層口腔機能を高めると共に、健康な口腔づくりをしていきたい。

■ 岐阜市立柳津小学校

1 実態

柳津小学校における、平成30年～令和4年までの5年間の未処置歯者数と歯肉炎・歯垢「2」と判定された児童数は以下のとおりである。(人)

	未処置歯者	歯肉炎「2」	歯垢「2」
平成30年度	183	0	22
平成31年度	149	5	40
令和2年度	167	4	27
令和3年度	174	2	17
令和4年度	161	4	11

令和4年度の未処置歯が3本以上、歯肉・歯垢「2」判定の学年別児童数は以下のとおりである。(人)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
未処置歯(乳+永)が3本以上	4	10	9	5	2	2
歯肉炎「2」	1	0	0	0	2	1
歯垢「2」	1	1	3	0	4	2

新型コロナウイルス流行前後において、未処置歯者数や歯肉炎・歯垢「2」判定の児童が増加傾向にあるわけではないが、2、3年生については、小学校入学時から歯科指導がほとんどできていない。他学年に比べると未処置歯3本以上の児童が多いため、コロナ禍でもできる指導を考えていく必要がある。

2 実践

①学級担任による「歯の王様のみがき方」

実施時期：6月 対象：1年生

新型コロナウイルスの影響により、給食後の歯みがきや学校での染め出し等の歯科指導は再開できていないのが現状である。

そこで、「歯の王様のみがき方を覚え、おうちの人と一緒に歯みがきをしよう」と題し、担任が歯の模型を使用してみがき方を指導した。児童は歯ブラシを持っているつもりで、担任と同じ動きを覚え、王様みがきができるように練習した。



②歯みがきカレンダー

実施時期：夏休み 対象：全校児童

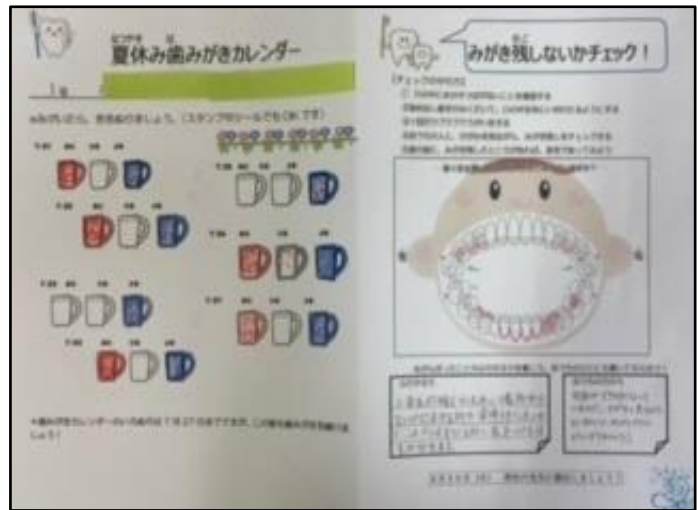
夏休みに歯みがきカレンダーの実施と染め出し検査を家庭で行う。

〈児童の感想より〉

- ・ていねいにみがいていたと思ったけど、染めてみたら赤いところもたくさんあったので、次からは赤くなったところも気をつけてみがく。
- ・自分ではきれいだと思っていたけど、奥歯がみがけていないことがわかった。それがわかったのがよかった。

〈保護者の感想より〉

- ・むし歯ができやすくなっているので、鏡を見ながらていねいにみがくように頑張りましょう。
- ・歯と歯の間は、歯ブラシだけでは汚れが取れないので、フロスを毎日使おうね。



③児童保健委員会活動

実施時期：7月と9月 対象：全校児童

名前はハッピーマン！柳津小の子が元気で安全に過ごせるように、一緒に活動するよ！

今年度、委員長を中心に児童が考えた保健委員会のゆるキャラが誕生！

また、児童が歯ブラシの使い方やみがき方等の動画を撮影したものや柳津小の歯の健康に関わるクイズをプレゼンで作成したものなどを使って、お昼の放送で「歯と口の健康」について、全校に伝えた。



【プレゼンの一部抜粋】



④疾病ハイリスクアプローチの取組 「歯の健康通信」

実施時期：夏休み懇談時 対象：保護者



歯科検診の治療勧告カード配布後から、夏休みの懇談時まで未受診の児童を対象に、担任より保護者に配布してもらった。(未処置歯3本以上、歯肉・歯垢「2」判定の児童)

歯科検診の治療勧告カードは、未処置歯があることは知らせることができるが、場所や本数は記載していない。そのため、今回の「歯の健康通信」では、どこに未処置歯があるかわかりやすくするため、歯のイラストに赤いシールを貼り見やすくした。

また、むし歯や歯肉炎に罹り患しないようにするための、食生活や歯のみがき方のポイントを記載した。

3 成果と課題

- 1年生で「歯の王様のみがき方」についての授業を実施したことで、正しい歯のみがき方を習得することができた。
- 児童保健委員会の児童たちが、ICT 機器を利用し、歯のみがき方などを呼びかけることで全校児童が歯と口の健康について興味・関心を持つことができた。
- 個人懇談で疾病ハイリスク対象者の保護者に「歯の健康通信」を配布することで、どこに何本の未処置歯があるか、未処置歯を作らないための生活習慣などを伝えることができた。
- 現在の受診率 45.9%、「歯の健康通信」配布対象者の受診率 34.5%と低い。生涯にわたり、歯と口の健康を守るため、家庭に啓発していく必要がある。
- コロナ禍ではあるが、学校歯科医と連携をとり、学校でできる歯科指導や家庭で実践できるような活動を紹介していきたい。

■ 川辺町立川辺北小学校

1 実態

本校は、児童数111名の小規模校で、4月の歯科検診の結果は下表の通りである。

むし歯3本以上で歯石のある児童は、中学年に数人いるが、歯肉1も含めると中学年以降で急に増え始め、高学年になるほど歯肉炎の児童が多いことが分かった。

学年	対象人数	むし歯3本以上+歯石	むし歯3本以上+歯石+歯肉1
1年	21	1人(5%)	1人(5%)
2年	14	0人(0%)	1人(7%)
3年	23	3人(13%)	13人(57%)
4年	18	3人(17%)	9人(50%)
5年	13	1人(8%)	8人(62%)
6年	22	2人(9%)	16人(73%)

2 ねらい

児童会、学級担任、養護教諭、栄養教諭、学校歯科医などが協働することで、児童自ら歯と口の状態を良くしようとする姿を目指す。学校と家庭が連携して歯の健康を保つ。

3 実践

①集団指導

ア 実施時期（年間を通して実施・特に6月と11月は強化月間に位置付けた。）

イ 内容

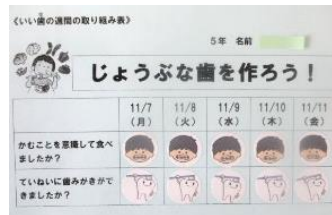
- ・毎日の給食後の歯みがき、お昼の放送での呼びかけ（保健給食委員会）、フッ化物洗口の実施（毎週水曜日）
- ・保健給食委員会が全校集会で歯みがきクイズを実施（6月：リモート集会にて）
- ・各家庭でカラーテストを実施（11月：全校児童対象）
- ・給食でよくかんで食べる日に「かんちゃんマーク」を付けて啓発
- ・毎月8の付く日を「歯の日」として歯に良い献立を提供
- ・11月8日が「いい歯」であることから、11月7日～11日を「いい歯の週間」とし、歯に良い給食を提供するとともに、5年生では、よくかんで食べることとしっかり歯みがきをすることについて、がんばりカードを使って取組
- ・食に関する指導（5年）「体に良いおやつのとり方を考えよう」（夏季休暇前に実施）



【保健給食委員による歯みがきクイズ】



かんちゃん



【取組カード】



取り組めたら、シールを貼る

ウ 成果

一部の児童を除き、給食後の歯みがきの習慣は定着している。6月と11月の強化月間については、特に意識した歯みがきができています。また、給食の「かんちゃんマーク」については、認知度も高く意識してかんで食べるができています。

②個別指導および学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期（4月、11月、12月）

対象者数（4月は全校、11月と12月は5年生（13人）のみ）

イ 内容

- ・ 4月歯科検診（全校）
- ・ 11月歯科指導（学級活動：担任・養護教諭・歯科医による指導）



【養護教諭による指導】



【自分の歯肉の状態を確認】



【歯科医による歯肉炎の判定】



【歯肉炎改善のための歯みがき指導】

「歯と口の健康を考えよう」の学習から〈児童の感想〉

- ・ 2週間で軽い歯肉炎が治ることを初めて知った。毎日3回歯をみがいて軽い歯肉炎を治したい。1か所、細かく20回みがく！
- ・ これからは、上の歯をしっかりとみがいて歯肉炎にならないようにする。これからはしっかりとみがきたい。

少人数の学級のため、集団指導の中で気になる児童に対しては、担任、養護教諭等から個別に声掛けをした。

- ・ 授業後の取組

養護教諭から授業内容をプリントしたものと歯みがきカレンダーを配布し、内容を説明した。

児童は、家庭で2週間、歯肉炎の改善を目標に取り組んだ。

- ・ 12月歯科検診



【ほけんだより・5年特別号】



【はみがきカレンダー】



【取組後、2回目の歯科検診】



【歯科検診を終えての感想発表】



【検診を終えての感想とご指導】

ウ 成果

11月に軽度歯肉炎の児童が6人いたが、5人が改善された。

〈検診後の児童の感想〉

- ・ 2週間、ていねいにみがいたことで歯肉炎が良くなってうれしかった。これからも、ていねいにみがいていきたい。

〈学校歯科医の先生から〉

- ・ 有名なスポーツ選手も歯をていねいに手入れしている。歯が丈夫だと踏ん張りがきく。一生使う歯なので、今後も大切にしてほしい。続けて取り組んでほしい。

4 成果と課題

○学校、学校歯科医が連携を図り、指導内容を検討したことで、効果的な指導ができた。

○今回は、5年生に重点を置いて指導した結果であるが、短期に集中して取り組むことで歯肉炎の改善が図られ、意識の高まりが継続できることが分かった。今後は、全校にも広め、意図的計画的に継続して取り組むことにより、全校的な改善につなげたい。また、家庭と連携して維持向上につなげたい。

■ 東濃実業高等学校

1 実態

全校生徒582人のうち、「未処置歯あり」7.4%(43人)、「歯肉の状態2」1.7%(10人)、「歯垢の状態2」1.5%(9人)という結果であった。比較的、歯及び口腔の状態が良い、綺麗であると学校歯科医の先生に褒めていただいている状況ではあるが、歯及び口腔内の状態が良くない生徒には歯科の未受診者が多い。それらの生徒は、歯石の付着が多い・脱灰が始まっている、歯槽膿漏になっているなど将来の歯及び口腔の健康状態が心配な生徒が多い。

2 ねらい

定期健康診断の結果、要受診者となった生徒のうち、夏休み明けの期日までに歯科受診できていない生徒に、歯及び口腔の健康維持の重要性と速やかな治療の必要性を認識させ、歯科医への受診につなげることをねらいとし、ハイリスクアプローチを実施。

3 実践

①集団指導

- ア 実施時期 ・定期健康診断終了後～8月末日
- イ 内容 ・健康診断結果及び保健だより配布時に担任より歯科受診の重要性や保健だより内の歯の内容について指導を実施。
・受診報告書は期限を決め、その期限までに提出できていない、もしくは、報告のなかった生徒へは三者懇談時に再度受診のお願いをした。
- ウ 成果 ・昨年度21.3%、一昨年度32.3%とかなり受診率が悪かったが、今年度は夏休み明けまでに59.7%となった。

②個別指導

- ア 実施時期、対象者数
9月中旬～10月初旬に夏休み明けまでに歯科未受診の生徒25名に個別指導実施。
- イ 内容 ①春の定期健康診断結果の確認
②歯みがき状況及び歯と歯肉の状態の確認
③医療機関の過去の受診状況及び今後の受診予定の確認
④むし歯や歯肉炎、歯石等に関する指導
⑤ブラッシング指導
- ウ 成果 ・個別の指導を行うことで、生徒は自身の口腔内の状況をしっかりと把握でき、己のこととしてとらえることが出来た。指導前に、学校歯科医と指導内容や指導方法について相談できたため、より効果的に生徒に指導することが出来たと思われる。
・特により良いブラッシング指導の方法や、むし歯・歯周疾患の行く末の恐ろしさは生徒に大きく響き、歯科医院受診へつなげることが出来た。



【指導に使用した資料の抜粋】

R4年度 保健指導

東濃実業高校 保健室

R4 歯科検診結果

東濃実業高校

年 組 さん

目指せ!! 80歳で20本

いつまでも健康な歯を保とう

<今年度の歯科検診の結果>

歯の本数	歯並び及び かみ合わせ	歯肉の状態	歯垢の状態	虫歯(C)の数	虫歯の予子前 (COS)の数	虫歯になりかけ (CO)の数	要注意乳歯

<<歯科に関するアンケート>>

1. あなたはいつ歯磨きをしますか?

朝起きてすぐ 朝食のあと 昼食のあと 夕食のあと 夜寝る前 その他()

2. 1回に何分歯を磨きますか?

3分以下 3~5分 5~10分 10分以上

3. 歯を磨くときに鏡を見て磨きますか?

見て磨く 見ない

4. デンタルフロスや歯間ブラシを使っていますか?

使ったことがない 時々使う 毎回使う

5. 歯に痛みがあったり、歯茎から血が出たりしますか?

ある (歯に痛みあり ・ 歯茎から血が出る) なし

<1回目 5月 26日の結果>

歯 列 咬 合	顎 関 節	歯 垢	歯 肉	歯								注			
				8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4
0	0	0	0	E D C B A A B C D E								現在 (例 A ←5→6)	×		
1	1	1	1	E D C B A A B C D E								・う歯 未処置歯 C	・要観察歯 CO		
2	2	2	2	E D C B A A B C D E								・欠損歯 (永久歯) O	・要治療歯 COS		
				8 7 6 5 4 3 2 1 1 2 3 4 5 6 7 8								・喪失歯 (永久歯) Δ			

<2回目 10月 25日の結果>

歯 列 咬 合	顎 関 節	歯 垢	歯 肉	歯								注			
				8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4
0	0	0	0	E D C B A A B C D E								現在 (例 A ←5→6)	×		
1	1	1	1	E D C B A A B C D E								・う歯 未処置歯 C	・要観察歯 CO		
2	2	2	2	E D C B A A B C D E								・欠損歯 (永久歯) O	・要治療歯 COS		
				8 7 6 5 4 3 2 1 1 2 3 4 5 6 7 8								・喪失歯 (永久歯) Δ			

◎2回目の歯科検診を受けて結果はどうになりましたか? (よくなった ・ 変わらない ・ 悪くなった)

◎検診結果をみて、今後どうしていくとよいか?記入しましょう。

4 成果と課題

受診勧告書だけでは歯科受診をしない生徒にハイリスクアプローチ指導を行うことで、自己の歯・口腔内の健康について関心を高め、歯みがきや歯科受診の重要性・必要性への気づきにつなげることが出来た。

歯科の受診率は、個別指導及び2回目の歯科検診を行うことで、79.7%にまで上昇しており、ハイリスクアプローチ指導によって生徒の行動変容が見られた結果であると思われる。

また、2回目の歯科検診時、学校歯科医に前回より口腔状態が良くなっていることを褒められた生徒が多くいた。生徒は大変うれしそうであり、歯みがきへのモチベーションアップにつながっていた。そして、検診時には、学校歯科医より一人一人に丁寧に歯の状態等を説明してもらえ、大変良かった。

ただ、今回のハイリスクアプローチ指導だけでは歯科受診率100%とならず、複数回の指導の必要性を感じる。また、家庭との連携や保護者への理解ももっと深める必要性を感じた。来年度以降は保護者向けのアプローチの仕方を検討していきたい。

■ 下呂特別支援学校

1 実態

小学部19名、中学部9名、高等部22名、合計50名の特別支援学校である。

5月の定期健康診断において、歯垢2が3人、歯肉2が1人で、要受診となった。いずれも、小中学部は0人で、高等部の生徒ばかりであった。このことから高等部の生徒全体を対象に歯科指導を実施し、11月に2回目の歯科検診を実施することとした。

2 ねらい

- (1) 歯や歯肉の健康について、知識の獲得
- (2) 歯みがき習慣の確立
- (3) 受診の促進

3 実践

①集団指導1

ア 実施時期 7月 高等部クラス別に少人数で実施。

イ 内 容 う歯、歯垢、歯みがき（デンタルフロス・歯間ブラシ含む）、
歯科受診（治療・予防）などについて

②保健だより配付

ア 配布時期 7月夏休み前（全校児童生徒へ）

イ 内 容 定期健康診断の要受診者への受診勧告
「夏休み 歯みがきチャレンジ」への協力の依頼
歯垢のつきやすいところ、歯みがきのポイント、
デンタルフロス、歯間ブラシなどについて

③「夏休み 歯みがきチャレンジ」

ア 実施時期 夏休み中の2週間

イ 内 容 毎日の歯みがきのタイミングと回数を記入

④集団指導2

ア 実施時期 10月 高等部全体で実施。一部個別に実施。
別日の昼休み、クラス別に補足。

イ 内 容 歯肉の観察、歯肉炎、歯みがきの方法についてなど

⑤集団指導3

ア 実施時期 11月 高等部クラス別に実施。

イ 内 容 歯科検診について

項目	判定	評価
歯垢	2→2	△
	2→1	○
	2→0	◎
	1→2	×
	1→1	△
	1→0	◎
	0→2	×
	0→1	×
歯肉	0→0	◎
	2→2	△
	2→1	○
	2→0	◎
	1→2	×
	1→1	△
	1→0	◎
	0→2	×
歯石	0→1	×
	0→0	◎
	+++	△
	++-	◎
	--+	×
	--+	◎

【表1】

4 評価

取り組みは高等部だけであったが、小学部、中学部も含めて、5月、11月実施の歯科検診の結果から評価する（2回の検診を受検した者のみ）。

判定方法は、表1による。本校の結果は、表2のとおりである。

判定 0：異常なし 1：要観察 2：要受診

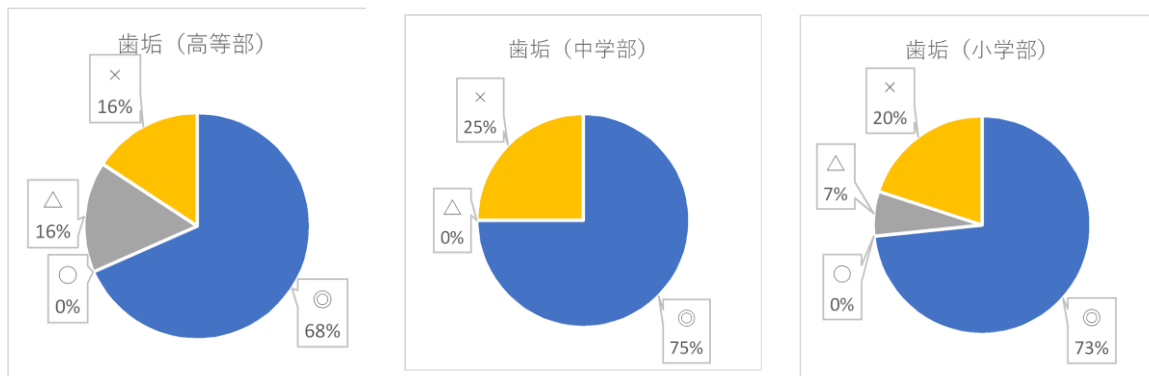
<例> 2→0 5月要受診→11月異常なし 評価：◎

項目	評価	高等部	中学部	小学部
対象者		19	8	15
未処置歯あり（人数）		4→4	1→1	4→1
歯垢	◎	13	6	11
	○	0	0	0
	△	3	0	1
	×	3	2	3
歯肉	◎	17	8	15
	○	0	0	0
	△	1	0	0
	×	1	0	0
歯石	◎	15	7	14
	×	2	1	1

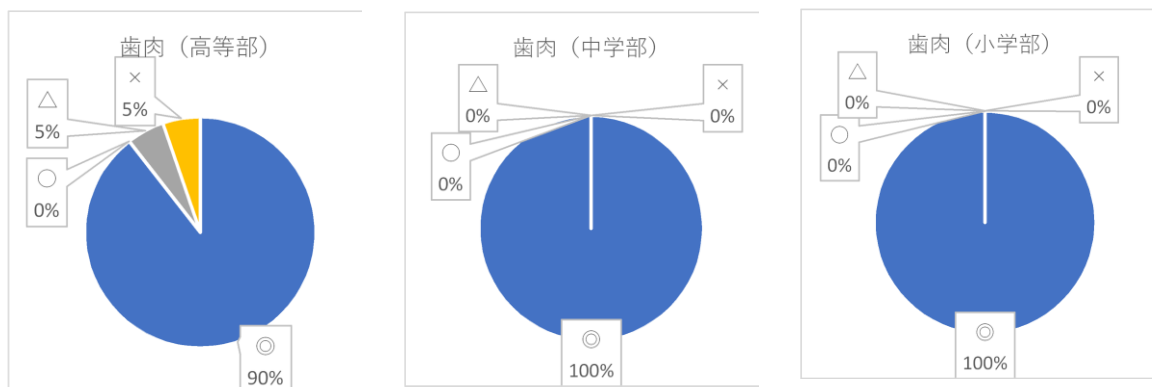
【表2】

(1) 未処置歯 5月には全校で9人だったが、11月には6人になった。高等部4人、中学部1人、小学部1人、のうち、高等部の2人は、5月、11月ともに受診していない。

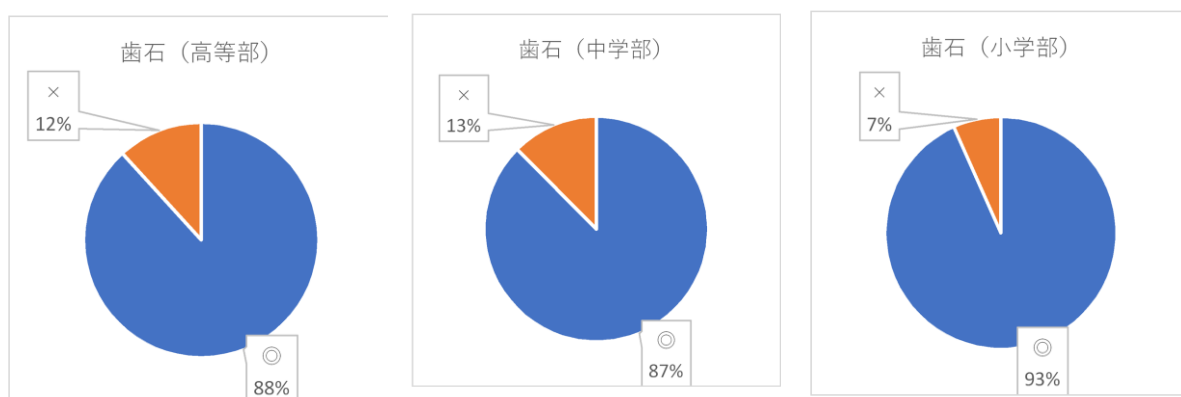
(2) 歯垢×は、高等部16%、中学部25%、小学部20%であった。



(3) 歯肉×は、高等部5%、中学部と小学部0%であった。



(4) 歯石×は、高等部12%、中学部13%、小学部7%であった。



5 成果と課題

(1) 「夏休み 歯みがきチャレンジ」は全校児童生徒を対象に行った。1日平均、小学部1.86回、中学部2.25回、高等部2.37回であった。親子で取り組んだり、7月に学んだ歯みがきのポイントを意識したりする機会となったと考えられる。

〈感想（一部抜粋）〉

小学部保護者

- ・歯みがきは毎日、気をつけてしているが、歯医者さんに『みがき残しがある』と言われたので、ときどきフロスを使っている。
- ・歯みがきのリズムをつかめた。一人で、歯みがきの音楽をかけて、みがくことができた。
- ・ときどき、寝る前の歯みがきがおろそかになってしまうので気を付けたい。
- ・こだわりが強いため、昔からのルーティンである寝る前にしかやれない。

中学部生徒

- ・鏡を見て、丁寧にできるようになった。

高等部生徒

- ・歯みがきをするときに注意するポイントを意識しながらできた。
- ・前、聞いたことを活かしてすみずみまできれいにみがいてみた。口の中がすっきりした。
- ・毎日歯みがきをすると気持ちがいいんだなと思った。

- (2) 高等部全体に対して行った指導では、スライドや動画を用いてブラッシングなどについて学んだり、自分の歯肉を鏡で観察して記入したりした。動画等を用いた指導は有効であると考えられる。

〈生徒の様子など（一部抜粋）〉

- ・ブラッシングの動画に合わせて、歯ブラシの向きを変えながら、動画と同じように歯みがきをする生徒の様子が見られた。
- ・歯みがきの習慣のない生徒が、他の生徒の前で、歯のモデルと歯ブラシをもって、ブラッシングの仕方を実際にやって見せてくれた。
- ・授業の翌日、「歯みがきの授業は役に立った」と連絡ノートに記入した生徒がいた。「平日頃、すべてのことに否定的な発言しかしない子が、珍しい。」と言って担任の先生が見せてくれた。

- (3) 歯科検診後は、その都度、全校児童生徒に結果を配付し、必要に応じて受診勧告をしている。未処置歯あり、歯垢×、歯肉×、歯石×の児童生徒の多くは、受診済みだが、12月16日現在、高等部の3人の生徒が未受診である。その3人には、冬休みなどを利用して受診するよう、再度、受診勧告をしていきたい。

- (4) 子どもたちが、う歯や歯周炎・歯周病の予防のために、自ら行動できるよう、計画的・継続的な指導を検討していきたい。